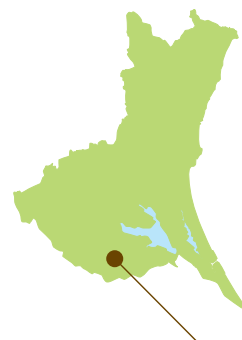


女性視点のアイデアや消費者目線が経営に大きな効果

有限会社横田農場

※2017年3月現在

代表者名	横田 修一	資本金	3百万円
設立年	1996年1月4日	売上高	127百万円(2015年12月期)
事業内容	生産(米)、消費者直売、加工・製造、観光・交流	経営規模	田132ha、生産施設1,000㎡、加工施設25㎡(米粉洋菓子)
従事者数	17人(うち女性10人。女性内訳:管理職2人、一般職2人、常勤パート6人)		
女性活躍支援	[女性に配慮した取組み、実績のある制度・支援] 産前産後休業 [女性に配慮して取組んだ環境整備] 施設設備関係(休憩室・屋内・野外トイレ・シャワーの設置)		



茨城県龍ヶ崎市塗戸町

経営概況

(有)横田農場は、大規模な水稲生産と、それを原料として主に米粉を使った加工品の製造・販売、直売所の経営、「田んぼの学校」という消費者交流等を行っている経営体である。経営面積は水田132haで、水田の中央に新設された約1,000㎡のライスセンターと、加工場を併設した直売所を有している。加工品としては、自社生産のお米100%を素材とした米粉シフォンケーキ、米粉ロールケーキ等があり、「子供に安心して安全なものを食べさせたい」という母親目線の商

品開発が消費者ニーズをとらえ、大手直売所等でも販売されている。

従業員は、役員2名、正社員9名、常勤パート6名の計17名であり、うち女性は10名(管理職2名、一般職2名、常勤パート6名)と過半数を占め、加工・販売部門は全て女性従業員が担当している。

1. 経営者の理念、意識改革

法人化前は米の生産・販売のみを行っており、生産現場での働き手や経営の意思決定等も男性中心であった。

その中で、子育て中の妻である祥(さち)氏の経営参画や女性社員の入社等により、男性中心で農業を営んでいた当時は「当たり前」と軽視していた部分が多いこと(「農業」は、子供たちが自然や食を理解するうえで大事なことが多くあることなど)に気づくようになり、積極的に女性の意見を取り入れはじめたという。

こういった女性の視点をきっかけにスタートした“米粉スイーツ事業”、“田んぼの学校”での子



供たちとの体験活動は、会社の認知度向上や地域住民の理解を深めることに大きく貢献し、会社の発展において非常に重要なターニングポイントをもたらしている。

米粉スイーツ事業では、主なターゲット層である主婦の目線に近い、安心・安全にこだわった商品開発が好評を得た。そのことにより、生産している米の売り上げの増加にもつながるなど、相乗効果が生まれている。

結果として、2015年度の売上高は1億2,700万円となり、2014年度の売上高1億2,500万円と比べて売上を伸ばしている。

また、直売所での加工品のスイーツの売上は安定した業績を出し、相乗効果として総売上高の増加につながっている。直売所での米の売上が2014年度と比較すると2015年度は約1.5倍に伸びたという。

このように、女性の視点やアイデアによって事業展開が進んだ面もあり、今後の経営発展にも積極的に取り入れていく方針である。

2. 女性従業員のキャリアアップへの取組み

先進事例地での勉強会や、加工に関するセミナー等、従業員が積極的に外部研修へ参加できる環境を整えている。そのことにより、商品開発のアイデアを得る、技術が向上するなどの効果を生んでいる。

さらに内部研修では、会社全体のミーティングを週1回開催し、生産部門と加工・販売部門での意見交換や情報共有を行っている。

加工部門では毎日、女性従業員同士でミーティングを行い、お互いに商品開発のアイデアや作業体制の効率化への意見等を話し合うことで、生産技術の確認や向上、モチベーションの向上につながっている。

3. 女性が働きやすい環境の整備

従業員は主婦が多いため、個々の家庭の事情に合わせて仕事ができるように、従業員同士が話し合い、要望に沿ったシフト制を取り入れている。また産前産後休業や育児休業取得の実績もあり、仕事と育児や家庭の両立がしやすい労働環境を整えている。

女性の視点やアイデアが、経営そのものや日々の作業に良い影響を与えていると実感することが多かったことから、生産現場でも女性がより働きやすい環境を作るためにさまざまな工夫がなされている。たとえば新設されたライスセンター内には、きれいな男女別のトイレ・更衣室、シャワーが完備されている。

生産現場は仕事の性質上、男性社員が多いが、女性従業員が多く所属する加工部門があることで、生産部門の女性社員も女性同士で話をしたり、悩みが相談できる環境作りにもつながっている。

審査委員の声

田んぼの学校の取り組みや、自社の米粉を使ったスイーツの販売により、お米の認知度が上がり売上向上と相乗効果をもたらしている。

祥さんの希望による加工・販売部門は女性が運営。お母さん目線の体にやさしいスイーツは子供に食べさせたい逸品である。「女性なので遅くまで仕事ができない」ことは、段取りや効率の良い仕事につながり、家庭と仕事の調和を実現している。

教育面でも地域を巻き込んだ取り組みがされており、女性活躍の好事例となっている。